

令和元年度 第3回 学校運営協議会 議事録

令和2年3月27日(金) 13:30~15:00

於：大阪府立守口東高等学校 校長室

書記：笹山 秋生

【出席者】

<委員>

竹内 章(大阪成蹊大学 スポーツ&カルチャーセンター長)【副会長】

小倉 庸敬(榊淀川製作所 代表取締役)

檜尾 まゆみ(本校PTA会長)

太田 結花(本校 キャリア教育コーディネーター)

<校長> 富永 誠

<事務局>

辻 真人(教頭)

山地 千里(事務長)

笹山 秋生(首席)

田村 健(進路指導主事)

【議事】

1 開会の挨拶

2 協議

①進路について…進路指導主事より今年度の報告

○概要 ・就職18.8% 進学73.0% 浪人未定8.5%

○進学について

- ・公募推薦への受験数が増加している。
- ・難しいと思われる大学に少しずつ合格してくるようになっている。
- ・進学については、上位層の生徒を伸ばすことができた。
- ・以下のような取り組みの実施

教育産業の診断テストの活用 毎日テストの実施 放課後講習や夏期講習の実施

○就職について

- ・一次内定率86.0%は全国平均よりも高い。最終内定状況は100%を達成する。
- ・営業販売、製造技能が多い 事務は少し厳しい。
- ・公務員 現役で1名合格
- ・以下のような取り組みを実施

全教員での求人の開拓 8回の就職説明会 模擬面接 応募前職場見学の実施
キャリア教育コーディネーターの活用

②学校評価について…校長より説明

- ・少人数授業アンケート調査結果は、国数英ともに肯定率80%以上に到達した。
- ・教育産業の実力テストの結果を見ると、上位層が増加する一方で下位層も増加している。
→上下の格差が広がっている。
- ・就職内定率100%を達成した。
- ・大学による出前授業を実施し、6講座を開講できた。
- ・年間の遅刻数は増加した。
- ・部活動の加入率40%以上は達成できたが、各部活動の実績を積み上げることが課題である。
- ・学校説明会について、6中学から依頼があった。また、大阪市内4区主催の説明会にも参加した。
- ・ホームページについては、閲覧数が大幅に改善した。
- ・教員の時間外勤務については、一人平均325時間を超えた。

③学校経営計画について…校長より説明

○めざす学校像

- ・社会に出て活躍できる力を身につけていくことは大事なことなので、いろいろな教育活動を通して進めていく。

○中期的目標

- ・進学希望者の増加を踏まえ、令和4年度までに大学短大進学率35%を達成する。

○本年度の取組内容及び自己評価

- ・国数英3教科での習熟度別授業を展開する。
- ・遅刻回数の減少。
- ・部活動加入率の向上。
- ・防災訓練を充実させて、万全の防災体制を再構築する。
- ・会議のペーパーレス化を推奨する。

④その他

- ・脳力開花プロジェクトの推進

3 意見交換

○進路について

- ・学校全体で取り組みができているから成果があっているのではないか。
- ・模擬面接で話ができない高校生が多いと聞く。入学後の抱負を聞いていくとだんだんと話せなくなる。大学では、コミュニケーション能力も重視するので、面接指導もはっきりと行う方がよいのではないか。
- ・進学率が上がってきているのは、よい傾向だと思う。真剣に取り組んでいる生徒が増えていると聞いている。
- ・周りに流される年代だけに、周りの雰囲気づくりが大切である。
- ・キャリアガイダンス室を開放したことで、お互いに励ましあい学習を進めることで最後まであきらめずに受験に臨む生徒たちが増えた。
- ・キャリアガイダンス室の開放で、生徒たちが自ら調べるようになった。

- ・守口東の生徒は、柔らかい感じがする。いいように言うと「優しい」感じがするが、反対に言う
と「大人しい」。女子生徒の方がテキパキしている感じがする。誠実な生徒が多く、言ったことは
受け入れてくれる。
- ・デジタルでのコミュニケーションのため、コミュニケーション能力や対人関係に個人差が大きい。
社会に出てからの適性が見極めが大変になる。
- ・スマホやSNSの時代なので、そこをいかに有効的に理解しながら、実際の対人コミュニケーシ
ョンとリンクさせていかないといけない。

○学校評価・経営計画

- ・令和2年度入試の定員割れについて、思いもよらない高校が定員割れしているのが近年の特徴か
と思う。学校の努力不足という感じではないと思う。

○新型コロナウイルス対応について

- ・今年は、新型コロナウイルスの影響で厳しい方向に進んでいるが、学校再開に向けてどのように
考えているのか。
- ・市の商工関係でもサービス業や飲食業での打撃が大きい。市のイベントごとできない。
- ・子供は学校休校の間、スマホで友人とコミュニケーションをとって、会話や勉強しているよう
である。
- ・生徒が登校するようになると、学校の再開を喜ぶ声と再開を危惧する声の両方の対応が難しく
なる。
- ・学校の再開について、学校としての考えはあると思うが、社会の意見と乖離しないように慎重
に考える必要がある。
- ・治療薬がない状況を考えると慎重にならざるを得ない。

4 閉会のあいさつ

委員の皆様は任期が満了します。次年度から再度委員をお願いする場合は、改めて校長からご依頼
します。ありがとうございました。